

春季ボランティアリーダー養成セミナー（オンライン）



期 日：5月22日（土）～ 5月23日（日）
参加者：大学生25名 法人ボランティア3名

講義Ⅰ「青少年教育と発達段階に応じた体験活動」

子どもが体験活動をとおして、親・ボランティアに認められたり、「よくできたね」などの声かけを受けたりすることで、満足感や達成感を感じることができる。このような経験を繰り返すことで、成長において必要な「やる気」が高まり、成長の可能性の幅が広がる。幼児にとってその時期に行う体験活動をとおして、感じた気持ちが、その後の「心」の生育を左右する。環境を整えて、多くの体験活動を経験できるように仕掛けることが重要である。

説明Ⅰ「ボランティア養成セミナー」

○ボランティアで心がけていること

- ・まず、自分が楽しむ。
- ・同じ子ども達ばかり見ないで全体を捉える。
- ・見通しを立てること、準備は大切。
- ・子どもの目線に立って考える。
- ・ある程度のことは許す！
- ・乗鞍に行けることに感謝して全身全霊で挑む！

○ボランティアをされていてよかったこと

- ・カレーの作り方が上手くなる。
- ・いろいろな施設に行って全国各地に友達が増えた！
- ・自分にはない発想を持っている人の話を聞いたらやる気UP。
- ・全部がよい思い出に。大学生になって泣ける経験は貴重。

説明Ⅱ「法人ボランティア登録制度についての理解」

- 1.カリキュラムについて
- 2.ボランティア養成事業について
- 3.活動における旅費について
- 4.保険について
5. 他施設での活動について
- 6.登録・更新について

※法人ボランティアポータルサイトマニュアル 法人ボランティア用冊子参照

講義Ⅱ「ボランティア活動の意義と心構え」

○無理せず、長く続く活動を

ボランティアは継続することが大切と言われている。ささやかな活動でも継続することで信頼が生まれる。また、あなたに「できること」と「できないこと」をはっきりさせ、無理な時には断ることも大切。

○約束を守る

お互いに気持ち良く活動するために、活動日・時間・場所・内容などは初めに確認し、活動先との約束は必ず守る。

○プライバシーや秘密を守る

活動の中で知り得た情報や秘密は必ず守る。

○「私为中心」ではありません

ボランティアは相手が居る活動。相手の話に耳を傾け意見を聴き、相手の気持ちを大切に・・・。

講義Ⅲ「青少年教育施設におけるボランティア活動」

○交流生活の必要性（一緒に遊ぶこと、喧嘩をとおして）

- ・社会のルール、規範意識や道徳心、思いやる心、自己抑制が養われる。

○青少年教育施設とは→体験活動をとおして、青少年の自発性・協調性・社会性を身につける目的で作られている。

○ボランティアとは…

- ・できるときにできる場所でできることを行う。
- ・地域社会や公共の福祉。自己の利益を求めない。

○心構えとして…

- ・大人としてのマナーや模範となる行動及び言動を大切にすること。
- ・自分が楽しむこと。子どもと自分を育てるボランティアに…。

講義Ⅳ・演習「野外炊事の注意事項と活動の流れ」

○野外炊事における危険 ○使用道具

- ・包丁・なた・火・食中毒
 - ・薪割り・調理・食材・洗剤・たわし・ゴミ箱・掃除
- 活動の流れ…全体説明→食材切り分け→薪割り→米の準備→火おこし→調理→完成→検体提出→食事→片付け
- 野外炊事を行う上で大切なこと…安全！楽しい！おいしい！このことをサポート。
※講習後、野外炊事のテストを行う。

講義Ⅴ・演習「安全管理」

○「普通救命講習Ⅰ」受講について

所在地の消防署に講習会の実施有無を確認し受講する。コロナの関係などで、講習会の開催予定が未定の場合は、応急手当WEBを受講する。テストを受けると受講証明書が発行されるので、それをデータで撮影してメールで送信する。その証明書をコーディネーターが確認する。

今年度はコロナ禍のため、大学生が来所することができず、オンラインで開催することになった。初めての試みだったので心配もあったが、参加者も多く充実したセミナーとなった。

寝食を共にしたり交流を深めたりすることはできなかったが、法人ボランティア登録後、今後の養成事業の中でボランティア同士の横のつながりを大切に、かけがえのない仲間づくりをしてほしい。もちろん、先輩、後輩の縦のつながり、指導者と子どもをつなぐ斜めの関係も大切にして、温かい活動を参加者に届けることができればと思う。

早くコロナ感染症が収束し、今回のセミナーのメンバーを中心に「のりくらボランティア」の活動が充実していくことを願っている。

